

令和4年度「生活者としての外国人」のための日本語教室空白地域解消推進事業
地域日本語教育スタートアッププログラム 報告書

団体名 小豆島町 (都道府県: 香川県)

1.当該地域の情報(令和3年12月現在)

地域の課題	<p>【外国人の増加と孤立の懸念】</p> <p>町内の外国人比率は1%を超え、存在感を増している。町の高齢化率は42%を超え生産年齢人口の減少が深刻であるため、技能実習や特定技能などの在留資格を持つ外国人は欠かせない存在となっている。特に若年層においてその傾向は強く、20歳代の人口に占める外国人の割合は10%近くにのぼる。外国人の存在感が増すにつれ、彼らが地域の中で孤立する懸念も同時に高まってきている。外国人住民の中には日本語が不自由で職場に馴染めない者も多く、失踪事件も年に数件報告されている。また離島であるため、他地域の外国人コミュニティとの交流も生まれにくく、外国人住民が孤立しやすい環境にあると言える。地域住民も外国人に必ずしも慣れておらず、多文化共生意識の醸成が求められている。</p>
在住外国人数 外国人比率	<p>在住外国人数:150人 外国人比率:1.1%</p>
在住外国人の 状況	<p>【主な国籍と人数】</p> <p>ベトナム47人 フィリピン38人 中国26人 ミャンマー9人 インドネシア8人 米国4人 韓国3人 台湾2人 ラオス2人 英国2人 スペイン2人 ウクライナ2人 (ほか5人)</p> <p>【在留資格】</p> <p>技能実習59人 永住者37人 特定活動22人 日本人の配偶者等11人 特定技能8人 技術人文国際6人 定住者3人 特別永住者2人 教育1人 家族滞在1人</p> <p>【滞在年数・在留期間などの状況】</p> <p>大きな変化は見られないが、特定技能が増加傾向にあるほか、定住志向の外国人の移住・定住も少しずつ進んでいる。</p>
在住外国人の 日本語教育の現状	<p>技能実習や特定技能等の在留資格を持つ外国人は全体の約6割にのぼるが、監理団体等が行う研修以外に日本語教育を受ける機会がなかったため、日本語能力が不十分なまま働いている者も多い。また日本語能力試験に取り組む実習生も多いため、町内企業の多くが日本語教育の機会を求めている。さらに町内にはここ数年、永住者や日本人の配偶者など多様な在留資格を持つ外国人の存在も目立ち始めている。彼らは一定水準以上の日本語能力を有する場合が多いが、学習意欲が高く、学びの場を求めている。日常会話だけでなく、職場や防災時の日本語、読み書き、文法、高度な日本語など、幅広いニーズに対応した日本語教室が必要とされている。</p>

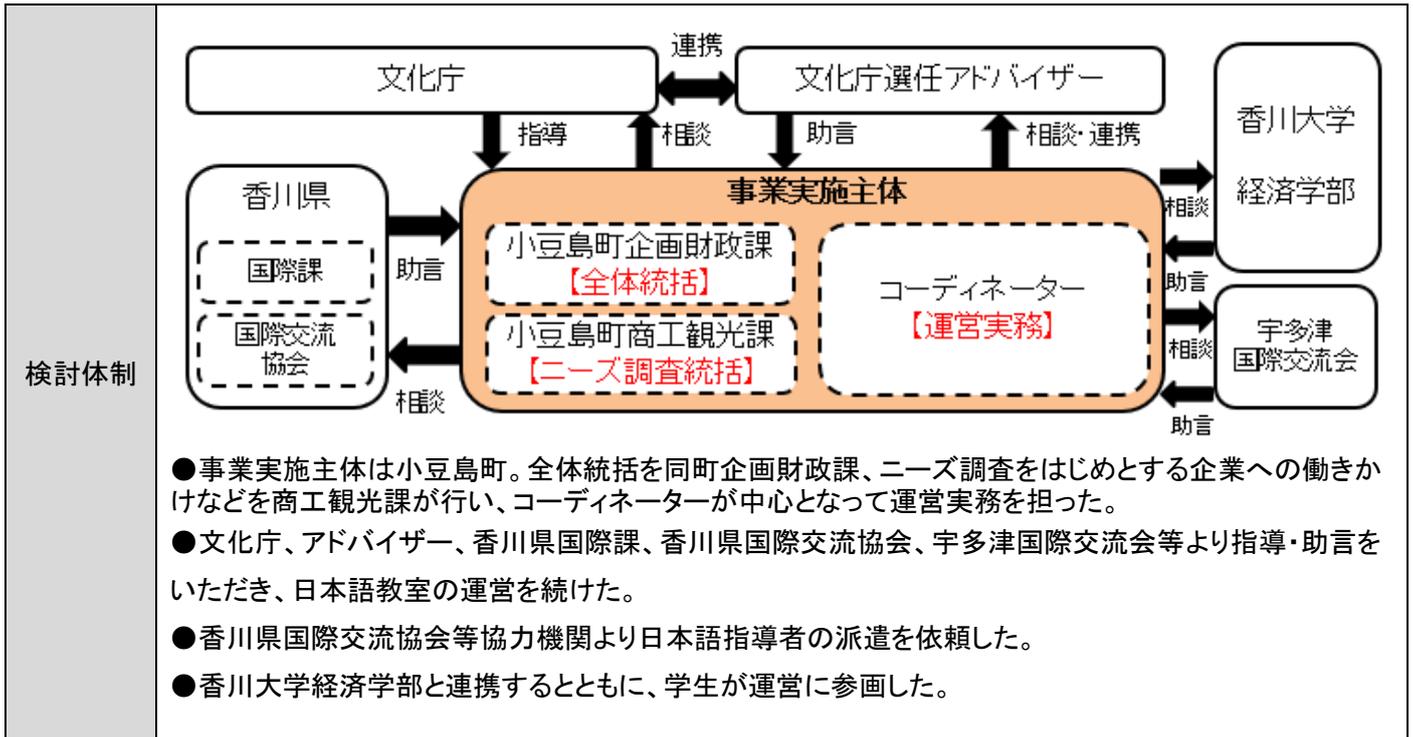
2.事業の内容

本プログラム取組年数	2年目
事業の目的	<p>事業の目的は、日本語教室の運営を通じて、「多文化共生のまちづくりを進めること」である。</p> <p>町は「第2期小豆島町の総合戦略(令和2年3月)」の中で、少子高齢化が深刻化する町の現状に鑑み、外国人材の活用は必要不可欠であるとした上で、「今後町民と外国人が共に活躍できる環境の整備を進める」との方針を示している。</p> <p>多文化共生施策は非常に多岐にわたるが、全ての問題の根幹には「言語」の問題があることから、まずは日本語教育を施策の中核と位置付け、長期的視野のもと多文化共生の基盤づくりを進めたい。</p>
事業の概要	<p>事業の柱は以下の6つ。</p> <p>【① 計画策定及び事務全般】</p> <p>事業計画の作成、町内外の連携体制の構築と強化、コーディネーター、アドバイザー、ボランティア、日本語指導者との協議・調整、広報・会計をはじめとする事務全般を行った。</p> <p>【② 企業・外国人住民への働きかけ】</p> <p>令和3年度から日本語教室の開催を開始し外国人参加者を確保していたが、4年度はさらなる参加者の増加と教室の安定運営を図るため、引き続き企業・外国人住民に対する働きかけを継続した。</p> <p>【③ 日本語教育プログラムの構築】</p> <p>主に技能実習生を対象とした基本クラス(A1、A2)、主に定住者を対象とした応用クラス(B)のそれぞれについて、実際の教室で実践を繰り返す中で参加者のニーズにより適合した日本語教育プログラムが必要とされており、作成に取り組んでいる。</p> <p>【④ 日本語教室の定期開催】</p> <p>月2回(毎月第2、第4日曜日)のペースで日本語教室を開催していたが、外国人参加者の増加と指導内容の多様化によりスタッフ、指導者の負担が増し、令和4年10月よりやむを得ず一時的に開催頻度を月1回に変更している。主に技能実習生を対象とした2つの基本クラス(A1、A2)、主に定住者を対象とした応用クラス(B)の3つを用意しており。毎回の教室では、テキストだけでなくカルタやカードゲーム、映像や発表の機会を取り入れるなど、楽しく日本語を学べるよう工夫した。</p> <p>【⑤ 新たな日本語指導者の獲得、育成】</p> <p>長期的には町内で資格を持つ日本語指導者が必要になることから、指導者の獲得を目指し、R4年9月に1名確保が実現した。また、教室の開催を続ける中で、ボランティアの中から将来指導者になり得る人材を見つけ、育成を図った。</p> <p>【⑥ 団体の設立】</p> <p>本プログラム終了後を見据え、日本語教室を担う団体の設立を目指し、準備を進めた。</p> <p>【⑦ 関連する取組】</p> <p>日本語教室先進地(岡山県総社市)視察、食を通じた国際交流ワークショップ、多文化共生サポーター養成講座(全3回)、宇多津町日本語教室とのオンライン交流会、外国人防災教室・災害時外国人支援ボランティア研修などを行った。</p>
事業の対象期間	令和4年4月～令和5年3月

<p>前年度の実績 (2年目以降の 団体のみ記載)</p>	<p>【日本語教室の開催】 事業開始1年目の令和3年度について、前半はコロナの影響で活動が制限されてしまったが、9月頃より企業・住民への働きかけを本格的に開始した。企業訪問を実施する中で、経営者へのアプローチだけでは必ずしも外国人との接点づくりにつながらないことがわかり、友人・知人の人脈を活用し多方面でのアプローチを試みた。このようにして企業や外国人住民とのつながりが徐々に生まれ、9月19日に第1回目のオンライン教室が実現、10月24日には対面での教室開催が実現した。令和4年1月24日時点で計13回(オンライン6回、対面7回)の教室が開催された。計13回で、5か国から6名が参加し、技能実習生だけでなく定住者や日本人の配偶者の参加も実現した。</p> <p>【日本語指導者の確保】 令和3年度の大部分は、コーディネーターが自ら日本語指導にもあたっていたが、今後指導体制を充実させる必要性を感じ、令和4年2月から香川県国際交流協会から日本語指導者(有資格者)1名を定期的に招へいすることが決定。さらに、町内在住の指導者(有資格者)からもサポートを受けることが決まった。</p> <p>【その他の実績】 関連する取組として、6月に町職員向け「やさしい日本語講座」を開催したほか、7月には外国人向け防災教室を実施し、この時は教室を開催した集落に住む12名の外国人が参加した。8月には近隣の先進地域での日本語教室をオンライン視察。10月に新規コーディネーター1名、ボランティア1名が新たに加入した。</p>			
<p>担当コーディネーター</p>	<p>氏名</p>	<p>所属</p>	<p>職名</p>	<p>担当する役割</p>
	<p>喰代伸之</p>	<p>小豆島町 商工観光課</p>	<p>地域おこし協力隊</p>	<p>全体運営、各種会議の設定、各種報告書の作成、その他全般</p>
	<p>田中久美子</p>	<p>小豆島町 住まい政策課</p>	<p>地域おこし協力隊</p>	<p>運営のサポート、会計</p>
	<p>白沢佳倫</p>	<p>小豆島町 企画財政課</p>	<p>地域おこし協力隊</p>	<p>運営のサポート、広報</p>
<p>担当アドバイザー</p>	<p>氏名</p>	<p>所属</p>	<p>職名</p>	<p>継続・新規の別</p>
	<p>砂川裕一</p>	<p>群馬大学</p>	<p>名誉教授</p>	<p>継続(2年目)</p>
	<p>中東靖恵</p>	<p>岡山大学大学院</p>	<p>准教授</p>	<p>継続(2年目)</p>
	<p>犬飼康弘</p>	<p>ひろしま国際センター</p>	<p>日本語常勤講師</p>	<p>継続(2年目)</p>

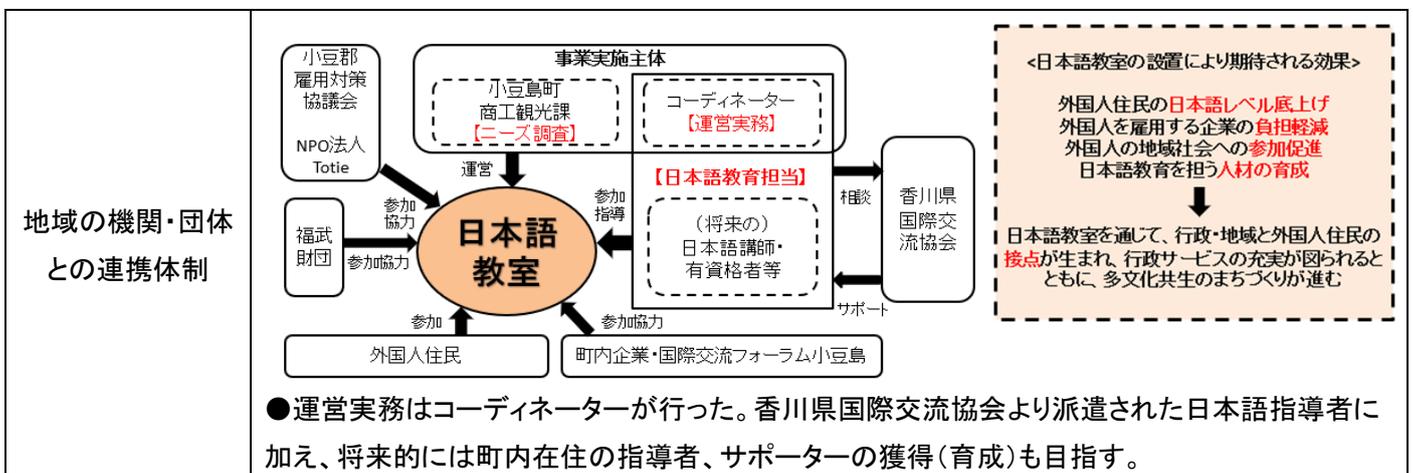
3. 日本語教室の設置に向けた検討体制

(1) 地域における日本語教育の実施に向けた検討体制



所属(担当課)	職名	担当者名
小豆島町商工観光課	地域おこし協力隊・ 国際交流支援員	喰代伸之
小豆島町	国際交流アドバイザー	森川光与
小豆島町企画財政課	課長	川宿田光憲
小豆島町商工観光課	課長	相原隆幸
香川県総務部知事公室国際課	課長補佐	橋本恵子
公益財団法人香川県国際交流協会	専務理事	鈴木里枝
香川大学経済学部	教授(副学長)	原直行
(宇多津町)宇多津国際交流会	代表	平田景子

(2) 日本語教室の実施に向けた事業運営体制図



	●実習生を雇用する企業の連合体である国際交流フォーラム小豆島のほか、小豆郡雇用対策協議会、NPO 法人 Totie の協力をいただくことに加え、開催場所の提供については福武財団の協力もいただいている。		
組織・団体・機関名	担当部局	職名	担当者名
小豆島町	商工観光課	地域おこし協力隊・ 国際交流支援員	喰代伸之
小豆島町	-	国際交流アドバイザー	森川光与
小豆島町	商工観光課	主査	中武弘景
国際交流フォーラム小豆島	(宝食品株式会社代表 取締役社長)	会長	大野英作
小豆郡雇用対策協議会	事務局	-	大塚一步
特定非営利活動法人 Totie	-	事務局長	大塚一步
公益財団法人福武財団	アートマネジメント担当 部	部長	大内航
技能実習生を雇用する町内 企業	-	-	-
公益財団法人香川県国際交 流協会	-	事業課長代理	松崎愛

4. 具体的な取組内容

(1)年間を通じた取組内容

年月	主な取組内容	コーディネーターの主な活動	アドバイザーの来訪
令和4年 4月	<ul style="list-style-type: none"> 日本語教室開催(4/10, 4/24) コーディネーター会議 企業、外国人住民への働きかけ 	<ul style="list-style-type: none"> 日本語教室開催の準備、当日の運営、片付け 日本語指導者との連絡調整 企業・外国人住民への周知、連絡調整 日本語教育プログラム作成(指導者と連携) 日本語教室の活動の記録、会計手続き 	
5月	<ul style="list-style-type: none"> 日本語教室開催(5/8, 5/22) コーディネーター会議 企業、外国人住民への働きかけ 	<ul style="list-style-type: none"> 日本語教室開催の準備、当日の運営、片付け 日本語指導者との連絡調整 企業・外国人住民への周知、連絡調整 日本語教育プログラム作成(指導者と連携) 日本語教室の活動の記録、会計手続き 	

6月	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語教室開催(6/12, 6/26) ・アドバイザー会議(6/15) ・コーディネーター会議 ・企業、外国人住民への働きかけ 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語教室開催の準備、当日の運営、片付け ・日本語指導者との連絡調整 ・企業・外国人住民への周知、連絡調整 ・日本語教育プログラム作成(指導者と連携) ・日本語教室の活動の記録、会計手続き ・アドバイザーとの連絡調整 	<p>★オンライン・アドバイザー会議(6/15 砂川、中東、犬飼)</p> <p>議論の内容: 企業や外国人住民との関係構築、日本文化体験ワークショップの導入、学生ボランティアの活用等</p>
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語教室開催(7/10, 7/24) ・アドバイザーからの助言(7/27, 28) ・コーディネーター会議 ・企業、外国人住民への働きかけ ・R4 年度事業計画書作成 ・日本文化体験を通じた日本語学習を導入 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語教室開催の準備、当日の運営、片付け ・日本語指導者との連絡調整 ・企業・外国人住民への周知、連絡調整 ・日本語教育プログラム作成(指導者と連携) ・日本語教室の活動の記録、会計手続き ・アドバイザーとの連絡調整 ・R4 年度事業計画書作成 	<p>★アドバイザーからの助言(7/27, 28 砂川、中東、犬飼)</p> <p>内容: R4 年度事業計画書について</p>
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語教室開催(8/28) ・コーディネーター会議 ・企業、外国人住民への働きかけ 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語教室開催の準備、当日の運営、片付け ・日本語指導者との連絡調整 ・企業・外国人住民への周知、連絡調整 ・日本語教育プログラム作成(指導者と連携) ・日本語教室の活動の記録、会計手続き 	
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語教室先進地(岡山県総社市)視察(9/4) ・日本語教室開催(9/11, 9/25) ・コーディネーター会議 ・企業、外国人住民への働きかけ ・新たな日本語指導者1名確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語教室先進地(岡山県総社市)視察(9/4)のための準備 ・日本語教室開催の準備、当日の運営、片付け ・日本語指導者との連絡調整 ・企業・外国人住民への周知、連絡調整 ・日本語教育プログラム作成(指導者と連携) ・日本語教室の活動の記録、会計手続き 	<p>※視察受け入れ(9/4 中東)</p>

10月	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語教室開催(10/9) ・(関連する取組)第1回多文化共生サポーター養成講座(10/10、有識者講演会) ・コーディネーター会議 ・企業、外国人住民への働きかけ 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語教室開催の準備、当日の運営、片付け ・日本語指導者との連絡調整 ・企業・外国人住民への周知、連絡調整 ・日本語教育プログラム作成(指導者と連携) ・日本語教室の活動の記録、会計手続き 	
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・(関連する取組)食を通じた国際交流ワークショップ(11/6) ・(関連する取組)第2回多文化共生サポーター養成講座(11/13、有識者講演会) ・日本語教室開催(11/20) ・宇多津町日本語教室とのオンライン交流会(11/20) ・(関連する取組)第3回多文化共生サポーター養成講座(11/27、やさしい日本語講座等) ・コーディネーター会議 	<ul style="list-style-type: none"> ・食を通じた国際交流ワークショップ(11/6)の準備 ・日本語教室開催の準備、当日の運営、片付け ・宇多津町とのオンライン交流会準備 ・日本語指導者との連絡調整 ・企業・外国人住民への周知、連絡調整 ・日本語教育プログラム作成(指導者と連携) ・日本語教室の活動の記録、会計手続き 	<ul style="list-style-type: none"> ★宇多津町とのオンライン交流会参加(11/20 砂川、中東) ★アドバイザーからの助言(11/20 中東) 内容:団体の立ち上げ等
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語教室開催(12/11) ・アドバイザー会議(12/11) ・企業、外国人住民への働きかけ ・コーディネーター会議 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語教室開催の準備、当日の運営、片付け ・アドバイザー会議準備 ・日本語指導者との連絡調整 ・企業・外国人住民への周知、連絡調整 ・日本語教育プログラム作成(指導者と連携) ・日本語教室の活動の記録、会計手続き 	<ul style="list-style-type: none"> ★アドバイザー会議(12/11 砂川、中東、犬飼) 議論の内容:日本語教室が目指すべき目標、学生ボランティアの活用、外国人リーダーの活用等
令和5年	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語教室開催(1/22) ・(関連する取組)外国人防災教室、災害時外国人支援ボランティア研修(1/29) 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語教室開催の準備、当日の運営、片付け ・日本語指導者との連絡調整 	

1月	<ul style="list-style-type: none"> ・事業進捗確認書作成 ・企業、外国人住民への働きかけ ・コーディネーター会議 ・指導者育成プログラム作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・企業・外国人住民への周知、連絡調整 ・日本語教育プログラム作成(指導者と連携) ・日本語教室の活動の記録、会計手続き ・事業進捗確認書作成 ・指導者育成プログラム作成(指導者と連携) 	
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語教室開催(2/26) ・企業、外国人住民への働きかけ ・コーディネーター会議 ・R4 年度事業報告書作成 ・指導者育成プログラム作成 ・コーディネーター情報交換会発表準備 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語教室開催の準備、当日の運営、片付け ・日本語指導者との連絡調整 ・企業・外国人住民への周知、連絡調整 ・日本語教育プログラム作成(指導者と連携) ・日本語教室の活動の記録、会計手続き ・R4 年度事業報告書作成 ・指導者育成プログラム作成(指導者と連携) ・コーディネーター情報交換会発表準備 	
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・R4 年度事業報告書作成、修正等 ・コーディネーター情報交換会発表(3/6) 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語指導者との連絡調整 ・R4 年度事業報告書作成、修正等 ・コーディネーター情報交換会発表(3/6) 	

(2) 立ち上げた日本語教室の詳細

教室の名称	小豆島町日本語教室		
外国人参加者について	[国籍] ベトナム9名、フィリピン8名、インドネシア8名、アメリカ2名、スペイン2名、イタリア1名、香港1名、台湾1名、中国1名 [属性] 技能実習生、日本人の配偶者等		
参加者数	受講者(外国人) 33名 支援者(日本人) 20名 (指導者3名、コーディネーター3名、サポーター・ボランティア14名) ※重複はカウントせず		
開催時間数	総時間 31.5時間	内訳	2時間 × 16回 ※一部、時間数が2時間でない回が存在する
目標	定期的な教室開催を続ける中で、新たな参加者の獲得、既存の参加者の離脱防止を実現し、教室の安定運営につなげる。教室の魅力向上を図るとともに、外国人にとって拠り所となる日本語教室を目指すこととした。		

実施内容							
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	内容	授業概要	支援者数
1	R4年 4月10日(日) 10:00-12:00	2	小豆島町 役場	2	・日本語会話レッスン ・日本語カードゲーム	【基本クラス】 ・会話レッスン(あいさつ、自己紹介) 【応用クラス】 ・会話レッスン(出身国の食文化についてプレゼンテーション) 【合同】 ・日本語カードゲーム	指導者2名 コーディネーター3名 サポーター・ボランティア1名
2	4月24日(日) 10:00-12:00	2	小豆島町 役場	4	・日本語会話レッスン	【基本クラス】 ・会話レッスン(あいさつ、病院受診の表現) 【応用クラス】 ・会話レッスン(生まれ育った町についてプレゼンテーション)	指導者2名 コーディネーター3名 サポーター・ボランティア2名
3	5月8日(火) 10:00-12:00	2	小豆島町 役場	4	・日本語会話レッスン ・プレゼンテーション	【基本クラス】 ・会話レッスン(あいさつ、買い物の表現) 【応用クラス】 ・会話レッスン(文と文の接続表現について) 【合同】 ・参加者の出身国の料理についてスライドで紹介	指導者2名 コーディネーター3名 サポーター・ボランティア1名
4	5月22日(日) 10:00-12:00	2	小豆島町 役場	3	・日本語会話レッスン ・プレゼンテーション	【基本クラス】 ・会話レッスン(あいさつ、レストランの注文) 【応用クラス】 ・会話レッスン(自分の趣味に関するプレゼンテーション)	指導者2名 コーディネーター3名 サポーター・ボランティア4名
5	6月12日(日) 10:00-12:00	2	小豆島町 役場	8	・日本語会話レッスン	【基本クラス】 ・会話レッスン(相手に質問をする方法) 【応用クラス】 ・会話レッスン(ハーブティーの育て方、作り方について説明)	指導者2名 コーディネーター3名 サポーター・ボランティア6名

6	6月26日(日) 10:00-12:00	2	小豆島町 役場	5	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語会話レッスン ・上級日本語 ・日本文化体験を通じた日本語学習 	<p>【基本クラス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会話レッスン(ハンバーガー屋での注文) <p>【応用クラス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「日本人が良く使う日本語会話お決まり表現」実践 <p>【合同】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・折り紙と日本語 	<p>指導者1名</p> <p>コーディネーター3名</p> <p>サポーター・ボランティア1名</p>
7	7月10日(日) 10:00-12:00	2	小豆島町 役場	4	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語会話レッスン ・上級日本語 ・日本文化体験を通じた日本語学習 	<p>【基本クラス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会話レッスン(病院での日本語) <p>【応用クラス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「日本人が良く使う日本語会話お決まり表現」実践 <p>【合同】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書道と日本語 	<p>指導者1名</p> <p>コーディネーター2名</p> <p>サポーター・ボランティア4名</p>
8	7月24日(日) 10:00-12:00	2	小豆島町 役場	5	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語会話レッスン ・上級日本語 ・日本語単語当てクイズ 	<p>【基本クラス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会話レッスン(気温、湿度、体調の表現) <p>【応用クラス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「日本人が良く使う日本語会話お決まり表現」実践 <p>【合同】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語単語当てクイズ 	<p>指導者1名</p> <p>コーディネーター3名</p>
9	8月28日(日) 10:00-12:00	2	小豆島町 役場	3	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語会話レッスン ・日本語単語当てクイズ 	<p>【基本クラス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会話レッスン(あいさつ、職場の日本語) <ul style="list-style-type: none"> ・日本語単語当てクイズ 	<p>指導者1名</p> <p>コーディネーター3名</p>
10	9月11日(日) 10:00-12:00	2	小豆島町 役場	5	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語会話レッスン、文法 ・上級日本語 ・日本語単語当てクイズ 	<p>【基本クラス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文法 <p>【応用クラス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「日本語会話オノマトペ基本表現」実践 <p>【合同】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語単語当てクイズ(個人対抗戦) 	<p>指導者1名</p> <p>コーディネーター2名</p>

11	9月25日(日) 10:00-12:00	2	小豆島町 役場	4	・日本語会話レッスン ・上級日本語 ・プレゼンテーション	【基本クラス】 ・会話レッスン(災害時の日本語) 【応用クラス】 ・「日本語会話超ミニフレーズ」実践 【合同】 ・香川大生企画による「日本の祝日」に関するプレゼンテーション	指導者2名 コーディネーター 2名 サポーター・ボラン ティア4名
12	10月9日(日) 10:00-12:00	2	小豆島町 役場	4	・日本語会話レッスン	【基本クラス】 ・会話レッスン(地図と道案内) ・日本語リスニング練習	指導者1名 コーディネーター 2名 サポーター・ボラン ティア1名
13	11月20日(日) 10:00-12:30	2.5	小豆島町 役場	13	・日本語会話レッスン、リスニング ・プレゼンテーション ・宇多津町との交流会	【基本クラス1、2】 ・会話レッスン、リスニング 【応用クラス】 ・会話レッスン(年末年始のイベント) 【宇多津町との交流会】 自己紹介、お互いの地域も魅力について説明	指導者2名 コーディネーター 3名 サポーター・ボラン ティア4名
14	12月11日(日) 10:30-12:00	1.5	小豆島町 役場	4	・日本語会話レッスン	【基本クラス1】 ・会話レッスン(年末年始のイベント)	指導者2名 コーディネーター 3名 サポーター・ボラン ティア4名
15	R5年 1月22日(日) 10:30-12:00	1.5	小豆島町 役場	12	・日本語会話レッスン ・プレゼンテーション	【基本クラス1、2】 ・会話レッスン(食べ物) 【応用クラス】 ・小豆島でおすすめのレストラン、カフェに関するプレゼンテーションの準備 【全体】 ・小豆島でおすすめのレストラン、カフェに関するプレゼンテーション	指導者2名 コーディネーター 2名 サポーター・ボラン ティア7名
16	2月26日(日) 10:30-12:30	2	小豆島町 役場	9	・日本語会話レッスン	【基本クラス1、2】 ・会話レッスン(日本語をつかってやりたいこと)	指導者2名 コーディネーター 2名 サポーター・ボラン ティア6名

【主な活動】



日本語教室基礎クラスの様子

R4年6月12日(日)
基礎クラスの会話レッスン



日本語教室の全体の様子

R5年1月22日(日)
基礎 A1、基礎 A2、応用 B の3つのクラスに分けて指導を行っている



日本文化体験を通じた日本語学習の様子

R4年7月10日(日)
書道体験を通じて、参加者が漢字等を学んだ

<p>教室の立ち上げに係る問題とその対応策</p>	<p>教室の立ち上げに関しては、事業開始1年目であるR3年度中に実現していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により大きな制限を受け、教室の開催が不安定であった。R4年度からは制限が大幅に緩和され、より安定した教室運営が可能となった。</p>
---------------------------	---

(3)その他関連する取組

取組名称	実施期間	内容
<p>日本語教室先進地(岡山県総社市)視察</p>	<p>2022年9月4日 9:30~12:30 (3時間)</p>	<p>多文化共生や日本語教室の取組の先進地である岡山県総社市を視察した。実際の教室やその後のミーティングの様子を拝見するとともに、中東アドバイザー及び市担当者より、日本語教室の立ち上げや発展の経緯、運営状況や課題等について話を伺った。</p>
<p>多文化共生のまちづくりサポーター養成講座</p>	<p>2022年10月~11月(全3回)</p>	<p>日本語教室をはじめとする町の多文化共生の取組への協力者(多文化共生のまちづくりサポーター)を確保・養成するため、以下の講座を実施した。</p> <p>【主催】 小豆島町、香川県国際課</p> <p>【内容】(全3回、1回3~4時間) 第1回(10/10) 講演会「多文化共生と地域の未来について考えよう」(担当:ダイバーシティ研究所代表 田村太郎) 第2回(11/13) 監理団体の取組の紹介(担当:協同組合ビジネスサポート理事長 江見修) 事例紹介・体験談(担当:ヒューマンリング協同組合 田村美津子) 第3回(11/27)</p>

		やさしい日本語講座(担当:香川大学教授 山下直子) 企画力養成ワークショップ(担当:香川県国際課)
食を通じた国際交流ワークショップ	2022年11月6日 16:00~18:00 (2時間)	町内在住外国人と地域住民の交流機会を創出するため、小豆島町福田地区にある福武ハウス(福武財団の施設)で「食」を通じた国際交流ワークショップを行った。地域住民の協力を得て、小豆島の郷土料理やベトナム料理などを共同でつくるとともに、日本語ゲーム等を行った。ワークショップには、技能実習生をはじめとする外国人住民が参加した。 【協力】 公益財団法人福武財団
宇多津町日本語教室とのオンライン交流会	2022年11月20日 11:30~12:00 (0.5時間)	同じ香川県内で地域日本語教育スタートアッププログラムの実施団体となっている宇多津町の日本語教室と交流会を行った。日本語教室の時間の一部を活用して、両町の教室をオンラインで接続し、外国人参加者がお互いに自己紹介したりそれぞれの町の魅力を発信したりした。それぞれの外国人参加者のさらなる交流機会の確保、両教室の連携強化を図った。
外国人防災教室・災害時外国人支援ボランティア研修	2023年1月29日 13:00~17:00 (4時間)	外国人防災教室と災害時外国人支援ボランティア研修を同時並行で開催した。 【主催】 小豆島町、香川県国際課 【協力】 小豆島町東消防署、JICA 四国 ・外国人防災教室 町内在住外国人を対象に、小豆島町の災害に関する講義、ファーストエイド、心肺蘇生法、AED などの救命講習、起震車体験、避難所体験などを行った。 ・災害時外国人支援ボランティア研修 外国人支援に関心のある住民を対象にボランティア研修を行い、外国人との交流機会を設けた。

【主な活動】



食を通じた国際交流ワークショップの様子

R4年11月6日(日)
料理や日本語ゲームを通じて、町内在住外国人と地域住民の交流を図った



多文化共生のまちづくりサポーター養成講座の様子

R4年11月13日(日)
第2回講座における監理団体の取組の紹介



宇多津町日本語教室とのオンライン交流会の様子

R4年11月20日(日)
小豆島町日本語教室のPC・モニターに、宇多津町日本語教室、両町のアドバイザー、文化庁、事務局の方々と接続して実施した

5. 今年度事業全体について

<p>進捗状況</p>	<p>【外国人参加者の増加と教室の規模拡大】 事業を開始した令和3年度から令和4年度にかけて、外国人参加者が増加し教室の規模が徐々に拡大している。令和3年度は計13回(対面7回、オンライン6回)の開催で、5か国から計6名が参加した。令和4年度は計16回(全て対面)開催し、9か国から計33名が参加した(※参加者数は重複をカウントせず)。開催が定期的となり、企業や外国人住民の間で教室についてより知られるようになった。</p> <p>【運営体制の拡充】 年間を通じ、参加者からのニーズに応じてクラスを増設してきた。令和4年4月から有資格の日本語指導者2名のもと基本、応用の2クラス体制で運営を開始した。7月に指導者1名が離脱したものの、9月から有資格の指導者を新たに1名確保した。参加者の増加や指導内容の多様化に伴い、11月からは基本2クラス(A1、A2)、応用1クラス(B)の3クラス体制で運営するようになった。応用クラスについては主担当の指導者が不在となったが、指導者のサポートのもとで香川大学の学生にファシリテーションを任せることで対応した。指導者2名、コーディネーター3名に加え、サポーターやボランティアも毎回3~7名程度確保できるようになり、運営体制は以前よりも充実している。</p>
<p>事業推進にあたり問題点と対応策</p>	<p>【日本語指導者、コーディネーターの確保と教室の開催頻度】 外国人参加者の増加に伴い、参加者の日本語レベルに大きな幅が生まれニーズも多様化したことにより、基本2クラス(A1、A2)、応用1クラスの全3クラスでの開催が必要になった。本来であれば月2回程度の教室開催が望ましいと考えられるところであるが、指導者が2名とも島外在住ということもあり、指導者の負担増から教室の開催頻度を月2回から一時的に1回に変更せざるを得ない状況になっている。現状、島外在住の指導者に頼っているため、将来的には島内在住の指導者やサポーターを確保することで現在の指導者の負担を軽減する必要がある。11月に「多文化共生のまちづくりサポーター養成講座」を実施するなどの対応策を講じ、新たな指導者・サポーターの候補を確保できるよう努めている。</p>

	<p>あわせて、コーディネーターの業務も増えていることから、コーディネーターを新たに1名増やし、教室の安定運営を図る必要がある。対応策として、R5年度からは指導者1名をコーディネーター兼務とすることとした。</p> <p>【外国人参加者の継続】</p> <p>外国人参加者、特に技能実習生の参加継続が課題である。教室の魅力向上のための「日本文化体験を通じた日本語学習」を取り入れるなどの対応をし、一定の成果を得ている。ただ、技能実習生の休日出勤の問題などもあり、長期の継続は簡単ではないと感じている。</p>
<p>成果</p>	<p>※一部「進捗状況」と記載が重複しています。</p> <p>【外国人参加者の増加と教室の規模拡大】</p> <p>事業を開始した令和3年度から令和4年度にかけて、外国人参加者が増加し教室の規模が徐々に拡大している。令和3年度は計13回(対面7回、オンライン6回)の開催で、5か国から計6名が参加した。令和4年度は計16回(全て対面)開催し、9か国から計33名が参加した(※参加者数は重複をカウントせず)。開催が定期的となり、企業や外国人住民の間で教室についてより知られるようになった。</p> <p>【運営体制の拡充】</p> <p>年間を通じ、参加者からのニーズに応じてクラスを増設してきた。令和4年4月から有資格の日本語指導者2名のもと基本、応用の2クラス体制で運営を開始した。7月に指導者1名が離脱したものの、9月から有資格の指導者を新たに1名確保した。参加者の増加や指導内容の多様化に伴い、11月からは基本2クラス(A1、A2)、応用1クラス(B)の3クラス体制で運営するようになった。応用クラスについては主担当の指導者が不在となったが、指導者のサポートのもとで香川大学の学生にファシリテーションを任せることで対応した。指導者2名、コーディネーター3名に加え、サポーターやボランティアも毎回3~7名程度確保できるようになり、運営体制は以前よりも充実している。</p> <p>【関連する取組の実施】</p> <p>令和4年7月より毎回のクラス開催にあわせて日本文化体験を通じた日本語指導を導入し、教室の魅力向上を図っている。また、「食を通じた国際交流ワークショップ」、香川県・小豆島町共催「多文化共生サポーター養成講座(全3回)」、宇多津町日本語教室とのオンライン交流会、外国人防災教室・災害時外国人支援ボランティア研修など、関連するさまざまな取組を実施し、教室の認知度向上、将来的な指導者・サポーターの育成、さらには地域全体の多文化共生意識の醸成を図っている。</p>
<p>地域の関係者との連携による効果</p>	<p>【香川県国際交流協会】</p> <p>有資格の日本語指導者の派遣が実現した。</p> <p>【香川大学経済学部】</p> <p>R4年度を通じて、香川大学経済学部の教授1名および学生3名が継続的に参画した。学生については当初は指導者のもとで基礎クラス、応用クラスのサポート役を務めていたが、4年11月以降、3クラス体制になってからは、学生に応用クラスのファシリテーションを依頼するようになった。学生の継続的な参加により、教室の規模拡大を実現することができた。</p> <p>【公益財団法人福武財団】</p> <p>食を通じた国際交流ワークショップを実施する際、会場として同財団の「福武ハウス」を活用させていただいた。このイベントにより、教室の認知度が向上した。</p> <p>【宇多津町日本語教室】</p>

	<p>宇多津町日本語教室とのオンライン交流会を通じて、同教室との連携が強化されたほか、同教室の活動の様子を知ることができた。</p>
<p>コーディネーターの 主な活動</p>	<p>① 計画策定及び事務全般(450H) 企画運営全般、事業計画書、事業進捗確認書、事業報告書等の作成、アドバイザー会議の設定、アドバイザーとの連絡調整、コーディネーター・指導者間の課題・対応策の共有、小豆島町をはじめ、香川県、香川県国際交流協会、香川大学等連携機関との情報共有、業務の記録、会計事務</p> <p>② 企業・外国人住民への働きかけ(150H) 企業訪問、チラシ作成、SNS を活用した教室開催の周知</p> <p>③ 日本語教育プログラムの構築(30H) 日本語教育プログラム作成、教室に対するニーズの聞き取り</p> <p>④ 日本語教室の定期開催(150H) 司会など教室運営、会場の準備、指導者の送迎、日本文化体験を通じた日本語指導メニューの企画・準備等</p> <p>⑤ 新たな日本語指導者の獲得、育成(50H) 関係機関との調整等</p> <p>⑥ 団体の設立(10H) 規約の作成等</p> <p>⑦ 関連する取組(40H) 日本語教室先進地(岡山県総社市)視察、食を通じた国際交流ワークショップ、多文化共生サポーター養成講座(全 3 回)、宇多津町日本語教室とのオンライン交流会、外国人防災教室・災害時外国人支援ボランティア研修</p>
<p>アドバイザーの 主な助言</p>	<p>○外国人参加者の離脱防止と教室の魅力向上のため、書道や折り紙など日本文化体験メニューを用意し、その中で日本語指導を行う時間を設けてはどうか →助言を受け、令和4年6月より導入した</p> <p>○有資格の指導者を増やしてはどうか →アドバイザーの紹介により新たな指導者の参画が実現</p> <p>○同じ香川県内に事業を行っている宇多津町と交流会をしてはどうか →アドバイザーのお力添えにより宇多津町とのオンライン交流会が実現</p> <p>○サポーターやボランティアは比較的シニアの方が多く印象だが、地域の子供や学生たちにも教室に参加してもらってはどうか →香川大学の学生に加え、地域の高校生にも一部参加してもらった。今後さらに中学生、高校生の参加を呼びかけていきたい。</p> <p>○教室をどのような場にしたいかを明確にしてはどうか →コーディネーター、指導者間の打ち合わせで重要なテーマとして扱うとともに、令和5年度以降は各クラスの指導計画(目標)をあわせて明確化する</p>
<p>今後の課題</p>	<p>【日本語指導者、サポーターの確保】</p> <p>外国人参加者の増加と指導内容の多様化に伴って全3クラスでの開催が必要になったことを受け、教室の開催頻度を月2回から一時的に1回に変更せざるを得ない状況になっている。現状、島外在住の指導者に頼っているため、将来的には島内在住の指導者やサポーターを確保することで現在の指導者の負担軽減を図る必要がある。ただ、小豆島町は人口が少なく、離島に位置する自治体であるため、指導者やサポーターの確保が非常に困難であること</p>

	<p>が分かってきている。引き続き、教室の認知度を上げるとともにサポーター養成講座などといった取組を継続し、候補となりうる人材の確保に努めたい。</p> <p>【外国人参加者の継続】</p> <p>技能実習生の参加継続が課題となっているが、企業における実習生の入れ替わりも頻繁であるため、実習生個人と信頼関係を築くことの限界も見えてきている。むしろ企業との関係を強化することが重要であると考えられることから、町の防災教室や関連するワークショップの開催を通じて企業側に多文化共生や日本語教育について理解を深めていただくよう引き続き努めていきたいと考えている。</p> <p>また、小豆島町の場合は永住者や日本人の配偶者など定住している外国人の割合が比較的高く、彼らは教室への参加がより意欲的で長期にわたる傾向がある。今後は、定住外国人の教室に対するニーズをより正確に把握するとともに、彼らが参加する応用クラス(B)の指導の充実に努めたい。</p>
<p>今後の予定</p>	<p>本プログラム最終年となる令和5年度は、現在立ち上げを進めている任意団体「小豆島町国際交流会」を法人化する予定である。プログラム終了後は、同法人が町からの事業委託を受けるかたちで日本語教室を始めとする多文化共生に関するさまざまな取組を進めることとなっている。</p> <p>日本語教室については、島内在住の指導者の確保・育成の状況次第ではあるが、可能であれば月2回程度の定期開催を続けたいと考える。町内在住外国人の日本語レベルの底上げを図るのはもちろんのこと、「外国人にとっての拠り所」としての機能を果たすことを目標としたい。町内在住外国人は孤立しやすい環境にあるため、外国人と行政、地域をつなぐ接点として教室を機能させることが重要であると考え。町内においては技能実習生、定住者ともに長期にわたって増加することが予想されている。「拠り所」としての機能が十分果たせるよう、長期にわたって教室の安定運営を実現したい。</p>

本件担当： 小豆島町商工観光課